

企業家たちの横顔に迫る

POS関連インターネットサービスにより ビジネスのネットワークを広げるIT企業



代表取締役社長 劉桂榮



専務取締役 陳海亭



株式会社 ジャンガ・テック

千葉県千葉市美浜区高洲 3-14-4 第2水野谷ビル5F
TEL 043-278-4652 FAX 043-278-4651
E-mail: info@janga.co.jp URL: http://www.janga.co.jp

岡本 まずは劉社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

劉 私は中国の生まれで1997年来日し1年間は貿易の仕事を、そして5年間は小売業の情報システムの仕事に携わりました。しかし、その仕事に携わっているうちに時代はどんどん進んでいき、やがて自分たちの技術がすごく古くなってきたことを実感したんですよ。そこで、パソコンの専門家であった主人と相談して、2002年の9月に『ジャンガ・テック』を立ち上げたのです。現在はシステム開発・運用やIT情報処理、インターネットサービスの提供、IT関連企業への人材派遣などを主業務として、日本と中国の橋渡し役として活動しています。

岡本 「技術力」ということに焦点をおいて、独立を果たしたわけですね。

劉 ええ。そして独立後すぐにその技術力を証明する機会が訪れました。独立して3カ月後の12月に、チェーン店の店舗を運営するシステムに関する依頼が入ったのです。そのときは日本の大手企業4社と競合したのですが、それらの企業に、まだ立ち上げて間もない『ジャンガ・テ

ック』が勝ったんですよ。

岡本 それは凄い！なぜそのようなことが可能だったのでしょうか。

劉 勝因は1つ。新たに研究開発したジャンガコネクタ（JTC）のお陰です。私どもが開発したJTCさえあれば旧POSレジでも直接インターネットに繋げて通信できるのです。いくら古いPOSレジでもJTCがあれば、インターネットでデータの集配信と送受信ができますから、コスト削減や効率化に役立ちます。

岡本 技術面を担当するご主人の陳専務に伺いますが、その開発にはどれくらいの時間をかけたのですか。

陳 研究開発には1年ほどを費やしました。それだけに私自身の思い入れも深いですから、私どものJTCが採用されたときには本当にうれしかったですね。

岡本 様々な事業を手掛けておられる御社ですが、現在特に力を入れている部門と申しますと？

劉 技術力から会社がスタートしましたから、やはり研究開発に最も力を入れていきたいと思っています。現在100店舗ほどに私どものサービスを提供しているので



インタビュアー 岡本 富士太

「互連互通」の理念のもと、2002年9月に設立された『ジャンガ・テック』。「連」は接続、「通」はコミュニケーションの意味であり、「人と人とがお互いに繋がればコミュニケーションが築かれて、物事は順調に進む」と同社の劉社長は語る。IT業界の伸長という波に乗って、顧客に最高のサービスを提供することを目指している同社を本日は俳優の岡本富士太氏が訪問。劉社長と、技術面で社長を支える陳専務にお話を伺った。

すが、1日でも早く、こういった優れたサービスがあるということをお客様に伝えたいですね(笑)。ですから、今後とも今まで以上にアピールしていきたいと思っていますんですよ。

岡本 スタッフの方は何名ほどいらっしゃるのですか。

劉 現在15名ですが、今年になってあと4名ほど入る予定になっていますから、20名近くになる予定です。役員も含めて、中国人と日本人がほぼ半半ずつになっております。少数精鋭主義で動いていますので、ときどき『ジャンガ』さんはたったそれだけの人数でどうやってこんなシステムを運営しているのか?と不思議がられることもあります(笑)。

岡本 お仕事におけるチームワークはいかがですか。

劉 独立前は「IT企業なのだから技術力さえあればよい」くらいに考えていたのですが、実際に運営するとそうはいきません。スタッフは十人十色ですから、1人1人の卓越性に焦点を合わせて動かせるのが大事なのですが、その人自身ですら自分の強みがどこにあるのか判断できない場合があります。人を動かす、というのはなかなか難しいもの、経営者として悩み所と言えますね。

岡本 そう仰る経営者の方は多いようですね。やはり「企業は人なり」ですから。では、会社のモットーなどはありますか。

劉 私どものモットーは「互連互通」と言いまして、それは「人と人とがつながり、業者と業者が繋がれば、ビジネスチャンスは生まれます。そういうネットワークの時代をイメージしているんです。また「ジャンガ」とは、当社がロゴとして使っている内モンゴルの伝統的なマークの名前でもあって、その意味は「完善」、「完璧」というものです。また、10個の四角を地球に乗せて構成されたシンメトリーな図形は地球上の十人十色、十業は十業の特色でバランスをとって

ます。1つ1つの四角のつながりは、IT技術によって人と人、そしてビジネスを繋ぐ事業を表しているのです。

岡本 なるほど。ところで、日本と中国ではやはり違いがありますか?

劉 女性の立場はぜひぶん違うように思います。中国の職場では男性女性の区別なく、努力すれば出世の道が拓けるんで

すよ。私自身も勤務時代は色々な案を出しましたが、女性で外国人ということもあって、あまり力がないように思われていたようです。

岡本 最後に今後の展望をお願いします。

陳 今後とも私の持っている技術をさらに磨くことで、中国

と日本の国境を越えた橋渡し役を担えればと思っています。

劉 日本には日本の習慣があり、中国には中国の習慣があります。ビジネスは、その国の習慣や社会の状況を把握していなければ成功しないのです。その点、私も『ジャンガ・テック』は中国と日本の事情をよく知っています。今後ともそうした強みをアピールし、『ジャンガ・テック』の名前をもっと広めていきたいと思っています。

岡本 高い技術力とチームワークを活かし、日本と中国の橋渡し役として、これからも頑張ってください。本日はありがとうございました。

(2004年1月取材)



中国と日本の橋渡し 高い技術を持つ『ジャンガ・テック』

高い技術力を誇る『ジャンガ・テック』はこれまで様々な製品の開発に成功してきた。ここではその一端を紹介しよう。

・ジャンガコネクター (JTC)

公衆回線を経由してデータを集配し、POSレジやハンディターミナルとコンピュータを接続するためのコネクター。これを使用することにより、インターネットを利用した通信ができ、高効率・低コスト化を図ることができる。

・NCS (News Center System)

企業や団体、個人が情報を管理するためのサーバ側アプリケーション。「無差別な」情報のシェアを可能にする。また、ある一定のグループ内におけるメッセージの管理を、リアルタイムで行うMCS (Message Center System) というシステムも開発されている。

・FCS (Forum Center System)

人々が持つ知識を集積するためのツール。集められた情報はインターネット上で素早くデータベース化され、いつでも照会検索が可能になる。

・DCS (Document Center System)

プロジェクト開発管理において、ドキュメントの保守と機密管理は最重要。このシステムを使えば、権限のある者にだけ、ドキュメントの内容を伝えることができる。

こうした数々の製品・システムを生み出す技術力こそが『ジャンガ・テック』の長所の1つであるが、当社にはもう1つの強みがある。それは「中国と日本、双方の事情に通じている」という点である。世界中の国々にはそれぞれ政治・民族習慣・社会制度があり、海外でビジネスを行う際には相手国の事情をよく知っておく必要がある。よって、日本企業が中国に進出しようとする際(また、その逆の場合も)、同社のような存在は必要不可欠となってくるのである。グローバル化の時代、同社の果たすべき役割は益々大きくなっていくだろう。同社のさらなる活躍が期待される。なお今回の取材の後、当社では人事管理のパッケージが完成、それによる新しい受発注のシステム作りに取り組んでいるところだという。